学校と地域をつなぐネットワークづくりが始まった
「地域に根ざした食農教育ネットワーク」の立ち上げについて

インターネット＋雑誌でむすぶ！

地域に根ざした
食農教育ネットワーク

校区を核に、教師・農家・さまざまな職種の人々・団体の新しいつながりづくりや、地域の個性を生かした教材づくりを、実践的にすすめていきます。

隔月刊『食農教育』（年5600円）

http://syokunou.net

入会すると…
- 植物のタネや体験のネタを交換できます。
- 自分の実践をホームページや雑誌に発表できます。
- メールマガジンでイベントや助成事業の情報が届きます。

応援その1

会員からのホットな情報を、メールマガジンで定期的に会員に配信します。

応援その2

インターネットにより、各地域の活動事例や助成事業を紹介、教材データベースを提供します。

応援その3

地域ごとに研究会を開き、実践交流をすすめます。

学校と地域の連携で深まる総合的な学習の時間

鹿児島市川上町で有機農業を営む橋口孝久さんは、地元の川上小学校の食農教育を支えてきた農家だ。三〇歳のとき就農し、宇根豊ら、いろいろな生き物と共存し生命が循環する農業を長い時間をかけて自分のものにしてきた。

この豊かな世界を子どもたちに伝え、環境問題、食べものの問題、その根っこにある生命へと目を向けてもらいたい。そう考えていた橋口さんと意気投合したのが、橋口さんの子どもが通学していた鹿児島市立川上小学校（当時）の東睦美先生だ。

米づくりを通した環境学習を構想していた東先生と子どもたちを、橋口さんは自分のアイガモ田に受け入れ、子どもたちにとって欠かせない「農家の先生」になっていった。

いまでは川上小学校周辺で二五軒の農家がアイガモ稲作に取り組むようになり、お米学習を支援する保護者の輪も広がっている。

「アイガモのいのちをいただく会」も、生命と食についての問いかけの場として毎年行なわれるようになった。

「学校と地域が連携することによって、『総合的な学習の時間』が、地域のもつ文化、歴史、風土に対する深い学びの場となっていくのではないか」。そう考えた橋口さんは、二〇〇四年十二月、文部科学省主任視学官（当時）の嶋野道弘さんを招いて「総合的な学習の時間」と、学校と地域の連携についてさらに考えを深めたいと、川上小学校の保護者とともにフォーラムを企画した。

当日、客席からの発言は途切れることなく続き、予定時間を四〇分もオーバーしてようやく閉会した。「子どもたちの未来のために、一生懸命、取り組んでいる先生の気持ちが伝わり感動した」「『生きる力』をはぐくむために具体的に何をしていけばよいかよくわかった」「総合的学習に取り組むにあたっての指針が見えたように感じた」「今日がはじまり。ネットワーク組織が立ち上がり、活動が充実されることを祈ります」。参加者一三五名中八〇名が記入したアンケートは、このような言葉で埋められていた。

このフォーラムを機に、橋口さんたちは「かごしま食農教育ネットワーク」を立ち上げ、その活動を鹿児島県全体に広げ、「地域に根ざした食農教育ネットワーク」にも入会して全国へ発信しようとしている。

地域の活性化と生きる力を育む教育

「次代を担う子どもたちに、最高の学習の場づくりを」を合言葉に、二〇〇五年、「**地域に根ざした食農教育ネットワーク**」（**略称「食農ネットワーク」**）が発足する。

このネットワークでは、地域の活性化と生きる力を育む教育を統一的にとらえ、①食と農をベースにした学校と地域の連携と、②地域素材の教材化の研究と情報交流をすすめていきたい。それは、本紙3～5面で多くの方々が発言しているように、「地域に生きることの意味」や、「人間が生きることとの原点」を確認し、新たな共同性をつくっていく営みとなるだろう。

全国の各地域には、個性的で創意工夫に満ちた地域づくりや地域教育の取り組みがある。それを担っている人々や、思いはあるがまだ動きだせない人、そうした多様な心ある人々が集う、全国研究会や地域研究会を開いていく。日常的には農文協が発行している雑誌『食農教育』や「食農ネット」のホームページ（http://syokunou.net）で交流や情報交換を行ない、みなの知恵を共有しつつ、全国的な食農教育の運動を盛り上げていきたい。

なお、**設立記念集会は、二〇〇五年七月九日（土）に東京お台場の「東京ビッグサイト」で**、東京国際ブックフェア2005の関連フォーラムとして開催される。学校、地域それぞれの立場から食農教育にかかわる全国の方々の、熱気あふれる活動交流の場となるだろう。

〈**呼びかけ人**〉嶋野道弘（文教大学教授、前文部科学省主任視学官）、宇根豊（農と自然の研究所代表理事）、木俣美樹男（東京学芸大学教授）、小林毅夫（上越教育大学教授）、守友裕一（宇都宮大学教授）

このネットワークの正会員の条件は『食農教育』の教育への発言などの情報を得ることができる。正会員になると次のような活動に参加できる。

①会員向けメールマガジン（四月から月一～二回配信）をとおして、苗や種の提供などの具体的な教材情報や、代表委員、副代表委員を中心とした方々の教育への発言などの情報を得ることができる。

②食農ネットホームページをとおして、自分の活動を発信したり、必要な情報や教材を求めたり、各地域研究会の活動報告、コンクール応募事例集、国や県、民間の食農教育関連の助成事業の紹介、教材研究データベース活用などの情報を得ることができる。

③全国や各地域での研究会に参加したり、その研究成果を『食農教育』誌上やホームページで発表することができる（地域研究会は、新潟県、徳島県、鹿児島県を皮切りに順次発足していく）。

農文協　「総合的な学習の時間」の総合誌

定期購読受付中

食農教育

年7回（隔月＋増刊号）定価800円、年間購読料5600円（〒込）

いのちのつながりにふれる不思議。地域の人に出会う驚き。「ナマの体験」が子どもたちをひきつけ、子ども自身が探究する学習が始まる。地域全体で学校を応援し、地域を賑やかにする教育実践誌。

【2005年5月号・No.41】特集
食の総合学習 どう立ち上げる？

●農家や農協、商店街の人など、地域の人の視点と知恵を大胆に導入。学校と地域を結ぶ特色ある学校づくりを支援
●農協、農業改良普及センター、農業高校など、「食べもの教育応援団」（農業体験学習のサポーター）の情報も充実。

地域の視点から教育を考える

一過性の興味を超えて食の学習を長続きさせるには？　苦心の授業づくり実践と、様々な専門家の食の深い世界に迫る視点とアイデア。●800円（〒120円）

バックナンバー紹介

2005年3月号　インターネット活用術
2005年1月号　ふるさとを育てる
2004年11月号　農家に学ぶ「いのちの授業」
2004年9月号　食育で校区が元気づく
2004年7月号　川と遊ぶ　暮らしを学ぶ
2004年5月号　お母さんを学習応援団に
2004年4月増刊号　給食を生かす授業づくり12ヵ月
2004年3月号　計画づくりは「振り返り」から

増刊号

食育のすすめ方
6つの視点　18のプラン
【2005年4月増刊号】●800円（〒120円）
〈味覚・体験・からだ・食材・加工・おすそわけ〉の6つの視点から、実践報告を通じて18の授業プランを紹介。【図解】食育の場づくりコツのコツ（坂本廣子、池田玲子）ほか

ご注文は　農文協〒107-8668　東京都港区赤坂7-6-1　☎03(3585)1141　FAX.03(3589)1387　URL=http://www.ruralnet.or.jp/　価格は税込